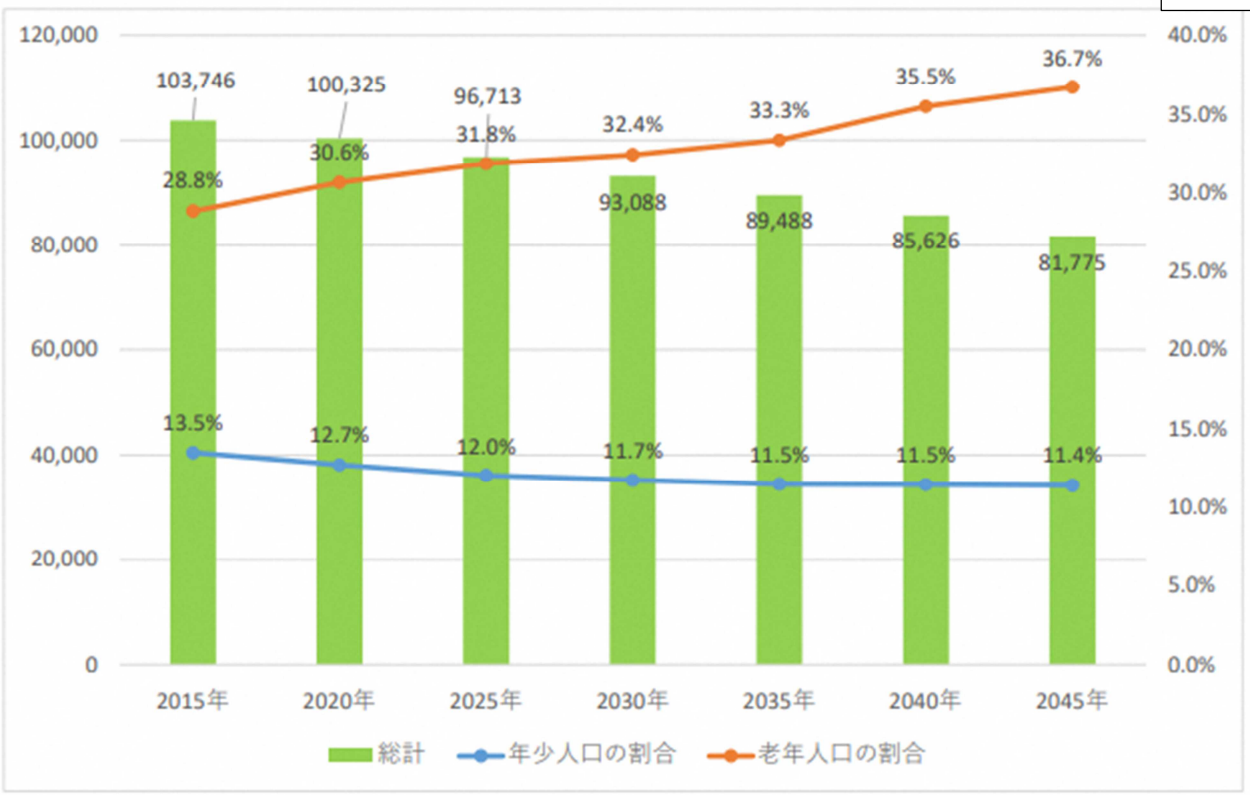
資料編

資料番号			頁
１	津山市の総人口と年少人口・老年人口の割合	・・・	②
２	津山市の一般世帯の家族類型別構成	・・・	②
３	津山市教育振興基本計画（第３期）概要版	・・・	③
４	津山市教育大綱（令和３年２月１日）	・・・	⑥
５	平成 22 年からの津山市全体の児童生徒数の推移	・・・	⑧
６	『津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針』（平成 22 年６月 29 日　津山市教育委員会）	・・・	⑨
７	令和４年度　全国及び岡山県学力調査の結果（抜粋）	・・・	⑫
８	令和４年度　学習状況調査の結果（抜粋）	・・・	⑮
９	長期欠席・不登校の状況	・・・	⑮
10	津山市小中学校　学区についての資料	・・・	⑯
11	体制整備の類型のメリット・デメリット	・・・	⑰
12	学校教育の体制整備の方策一覧（令和４年８月）	・・・	⑲

資料１

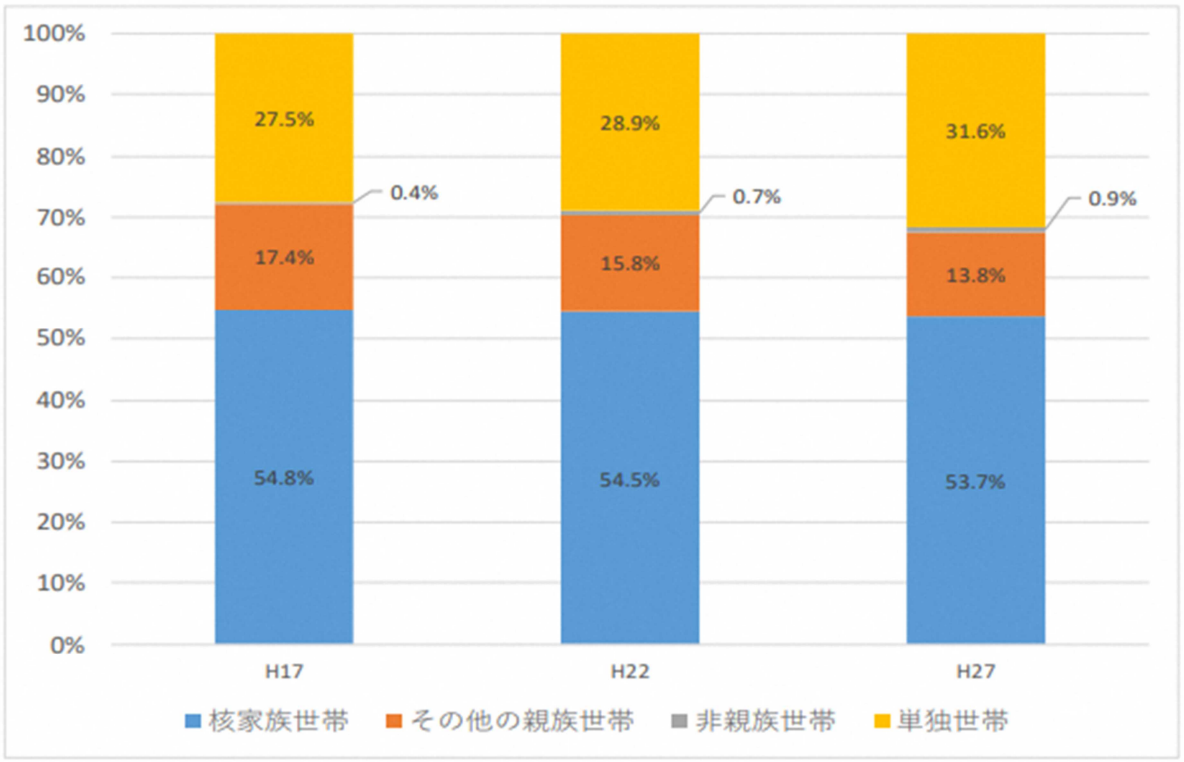
【津山市の総人口と年少人口・老年人口の割合】



出典：国立社会保障・人口問題研究所

資料２

【津山市の一般世帯の家族類型別構成】



出典：国勢調査

ともに『津山市教育振興基本計画』より

資料３

【概要版】津山市教育振興基本計画（第3期）

（令和4（2022）年度～令和7（2025）年度）

～自立し　心豊かにたくましく　「つなぐ力」を育む～

Ⅰ　第3期津山市教育振興基本計画の策定にあたって

1　計画策定の趣旨

「第２期津山市教育振興基本計画」（平成29年度～令和3年度）の成果と課題を鑑み、社会情勢の変化や「津山市教育大綱」「津山市第５次総合計画（平成２８年度～令和７年度）」を踏まえて、今後の本市教育が目指すべき方向や計画期間中に取り組むべき具体的な施策、目標とする指標等を明らかにし、学校・家庭・地域が一体となって取り組めるよう、市民や保護者にもわかりやすい計画を策定します。

2　計画の範囲

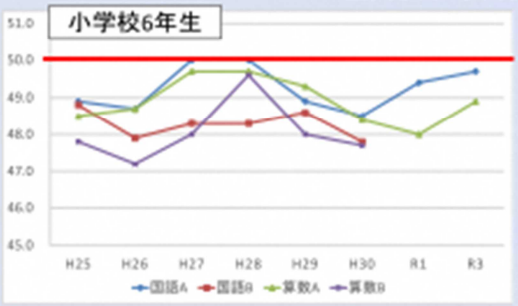
令和２年４月からの機構改革により、スポーツ、文化部門などが市長部局へ移管となり、各部局において推進計画等を定め取り組んでいることから、本計画 は、教育委員会が所掌し施策を実施している幼児教育、学校教育、及び家庭・地域教育を対象範囲とします。

Ⅱ　教育の現状と課題

1　確かな学力の育成

学習定着の状況は小学校3年生から5年生については、改善傾向にありますが、それ以上の学年の標準スコア（全国の平均正答率を50としたときの換算値）は全国を下回っている状況です。

全国学力・学習状況調査（標準スコア）



2　自己肯定感の醸成（意欲・自信等の向上など）

学力・学習状況調査での「自分には、よいところがあると思う」の設問に肯定的な回答をした割合については、上昇傾向にはあるものの、岡山県平均よりは低い状況です。

3　人間関係構築力・規範意識等の向上

規範意識の向上と郷土愛の育成のため、様々な体験や経験ができる環境を整えていく必要があります。また不登校対策についての対応を行ってきましたが、不登校出現率が小中学校ともに高い状態が続いています。

4　学校教育の質の向上に向けたＩＣＴの活用

ＩＣＴを最適に組み合わせた授業改善の方法を研究するとともに、教育データを分析・利活用できる環境整備等を進め、すべての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現していく必要があります。

5　郷土愛と国際性を育む教育

郷土の素晴らしさを世界に発信し、郷土の発展に寄与できる人材を育成するために、国際交流や英語学習等を充実させることで、優れた国際感覚や異なる文化を理解し尊重する態度を身に付けることが重要です。

Ⅲ　計画期間に取り組む施策の基本的方向性

これからの社会は、グローバル化やデジタル技術の進展など、変化の激しい予測困難な時代と言われています。
また、子どもたちを取り巻く環境は、いじめや不登校の増加、学力や貧困の問題など、様々な課題が山積する中、教育の果たす役割はますます重要となってきています。
このように急激に変化する時代の中で、**子どもたち一人ひとりが課題を見出し、主体的に考え、多様な人々と協働しながら課題解決することができる資質能力を育成**することが求められています。
そして、**①自らの将来（進路）を自らの力で切り拓く人材、②ふるさとに誇りと愛着をもち、自己肯定感を高め、地域や社会に貢献できる人材を、学校・家庭・地域が一体となって育成**することが重要と考えます。
本計画では、基本的方向性を、**「教育活動の推進・充実」**と**「教育環境の改善・充実」**の2本柱とし、これからの社会構造の変化を見据え、今後の明るい津山の未来を創るための本市教育全体の「道しるべ」として、**３つの目指す人間像**を掲げています。そして、**目指す人間像ごとに基本目標を設定**し、**目標を達成するための具体的取組**について示しています。

教育活動の推進・充実

基本目標　ア．主体的に学ぶ意欲の育成

質の高い幼児教育、**個別最適な学びと協働的な学びのためのＩＣＴ教育、ＩＣＴを活用した先進的授業の研究**、キャリア教育の推進、学び直しの機会の提供　など

基本目標　イ．確かな学力の向上

保幼こ小の連携、**教育データを活用した授業改善**、「学びのサイクル」の推進、　読解力・英語力の向上　　など

基本目標　ウ．健やかな心と体の育成

子育て支援の充実、リズムジャンプ等を取り入れた体力の向上、食育の推進、長期欠席・不登校への対策、児童生徒の相談・支援体制の充実　　など

【本市の教育が目指す人間像】

自立
自立して、自己の将来を切り拓き、たくましく生きていけるひと

つながり
広い視野で人や地域とつながり、互いを認め合って生きていけるひと

郷土愛
ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひと

基本目標　ア．自他を尊重する心の育成

グローバル化への対応、多様性を認め合う心の育成、いじめ・暴力行為への対策

基本目標　イ．人や地域との豊かな人間関係の構築

幼児教育における地域との交流活動推進、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動による社会性の育成、家庭教育の啓発、青少年の健全育成　　など

基本目標　ウ．道徳性や規範意識の醸成

教科道徳の充実、スマートフォン・インターネット対策　　など

基本目標　ア．津山の歴史・伝統・文化などを学び大切にする心の育成

子ども観光ガイド育成塾、**地域人材や郷土施設を活用した授業「つやま郷土学」の推進**、異文化への理解と国際感覚の育成　　など

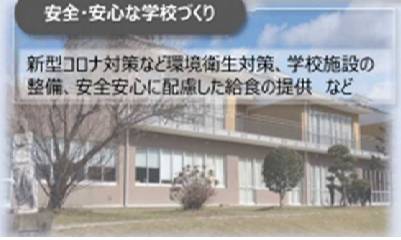
基本目標　イ．ふるさと津山に誇りと愛着をもち、社会に貢献できる人の育成

中学生の地元企業体験、つやま元気大賞表彰の推進　など

教育環境の改善・充実

安全・安心な学校づくり

新型コロナ対策など環境衛生対策、学校施設の整備、安全安心に配慮した給食の提供　など



良好な教育環境の維持・向上

ＩＣＴ環境整備、小中学校の適正規模・適正配置、学校事務の効率化、教職員の働き方改革　など

総合的な連携体制の構築

教育委員会活動の活性化、親（保護者）学講座の推進　など

Ⅳ 計画の実現に向けて

1 計画の分かりやすい発信

今後の津山市の教育の目指すべき方向や具体的な施策等を、学校・家庭・地域がしっかりと共有できるよう、ＳＮＳ等による情報発信も工夫しながら、市民に分かりやすい丁寧な説明と情報の提供に努めます。

2 客観的な根拠を重視した教育施策の推進

数値化できるデータ・調査結果のみならず、数値化が難しい側面（児童生徒等の課題、保護者・地域の意向等）について、可能な限り情報を収集・分析することで、客観的根拠に基づいた教育政策に取り組みます。

3 地域住民・ボランティア・ＮＰＯ・企業等との協働

多様な主体と行政が、力を合わせ活動することにより、社会全体で教育に取り組む仕組みづくりを進めます。
また、今後のＩＣＴ化への対応のため、東京学芸大学やＮＴＴ西日本等との実証事業を推進します。

4 関係部局・関係機関等との連携・協力

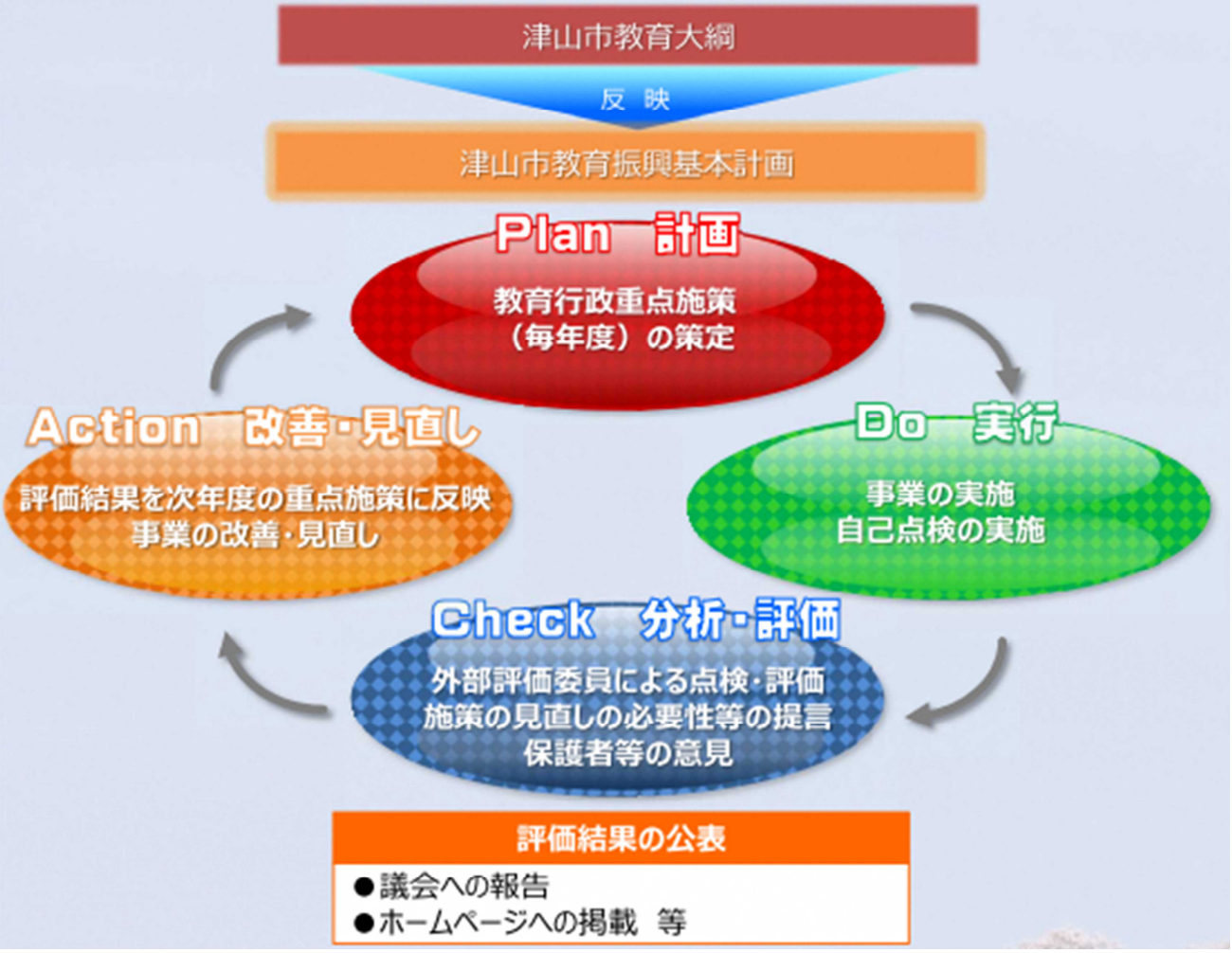
総合教育会議等の場で市長と協議し、円滑かつ重点的に実施されるよう必要な予算確保に努めます。
また、市の関係部局や津山警察署、津山児童相談所はもとより、国、県、周辺市町村と相互に連携・協力を図りながら、組織横断的な取組を展開します。

5 岡山県等との連携と学校の主体的な運営への支援

各学校での教育活動が充実するよう、県の助言等も受けながら、適切な指導・助言や情報提供を行い、社会に開かれた特色ある主体的な学校運営を支援していきます。

6 進捗状況の点検と計画の見直し

毎年度、計画の着実な実施に努めるとともに、事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、次年度以降の施策の改善等に生かすことで、計画内容の適時・適切な見直しに努めます。



資料４

津山市教育大綱

私たちのふるさと津山市は、岡山県北東部に位置し、北部は中国山地の一角を形成し、南部は津山盆地と呼ばれ、標高１００ｍから２００ｍの平坦地が広がっています。約１３００年前にこの地に美作国の国府が置かれてから、現在に至るまで、地域における政治、経済、文化の中核として発展してきました。また、周辺部には美しい里山の風景が広がり、都市と自然が融合する、表情豊かな地域です。

江戸時代、津山藩では学問を奨励しており、日本初の本格的な化学書「舎密開宗（せいみかいそう）」を著し、「細胞」「繊維」「酸素」などの用語を造語した宇田川榕菴（うだがわようあん）や、日本に開国を迫るペリーが持参したアメリカ合衆国大統領の親書を翻訳した箕作阮甫（みつくりげんぽ）など、多くの優れた洋学者を輩出しています。彼らの遺した業績は、明治以降の我が国の発展を支えました。

未知なる学問に挑み続けたこうした先人たちの姿に学び、変化の激しい時代を生きる私たちは、これからの未来を生きるこどもを育む教育の姿をこの大綱に描きました。ここには、津山のこどもたちが社会の中で自信と誇りを持って歩んでほしいという願いが込められています。

令和３年２月１日

津山市長　　谷　口　圭　三

1　私たちが育てたいひと

（1）自立して、自己の将来を切り拓き、たくましく生きていけるひと

（2）社会の中で広い視野を持ち、人や地域とつながり、互いを認め合って生きていけるひと

（3）ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひと

2　私たちがめざす教育

（1）自ら学ぶ力の育成
夢や目標をみつけられるよう、物事に興味や関心を持ち、自ら体験し学ぶ力を育みます。

（2）すこやかな心とからだの育成
健全な社会生活を送るため、互いを思いやる心と健康なからだを育みます。

（3）自己肯定感の醸成
様々な体験や経験を通して、自分の良さをみつけ、自信を持って主体的に生きていく力を育みます。

（4）人とつながる力の育成
多様性を認め、他者を尊重する姿勢や対話する力を育みます。

（5）津山を思う心の醸成
津山の歴史や文化に触れる機会をつくり、ふるさとを愛する心を育みます。

3　私たちがつくる学びの場

（1）夢中になって遊ぶことができる園
園児が、豊かな体験をする中で自ら気付いたり考えたりできる園をめざします。

（2）学ぶことが楽しくなる学校
児童生徒が、自ら深く考え教師や友人と対話しながら学ぶ学校をめざします。

（3）安心して学ぶことができる学校・園
落ち着いた学習・保育環境を構築し、幼少期から一貫した個に応じた学びが充実する学校・園をめざします。

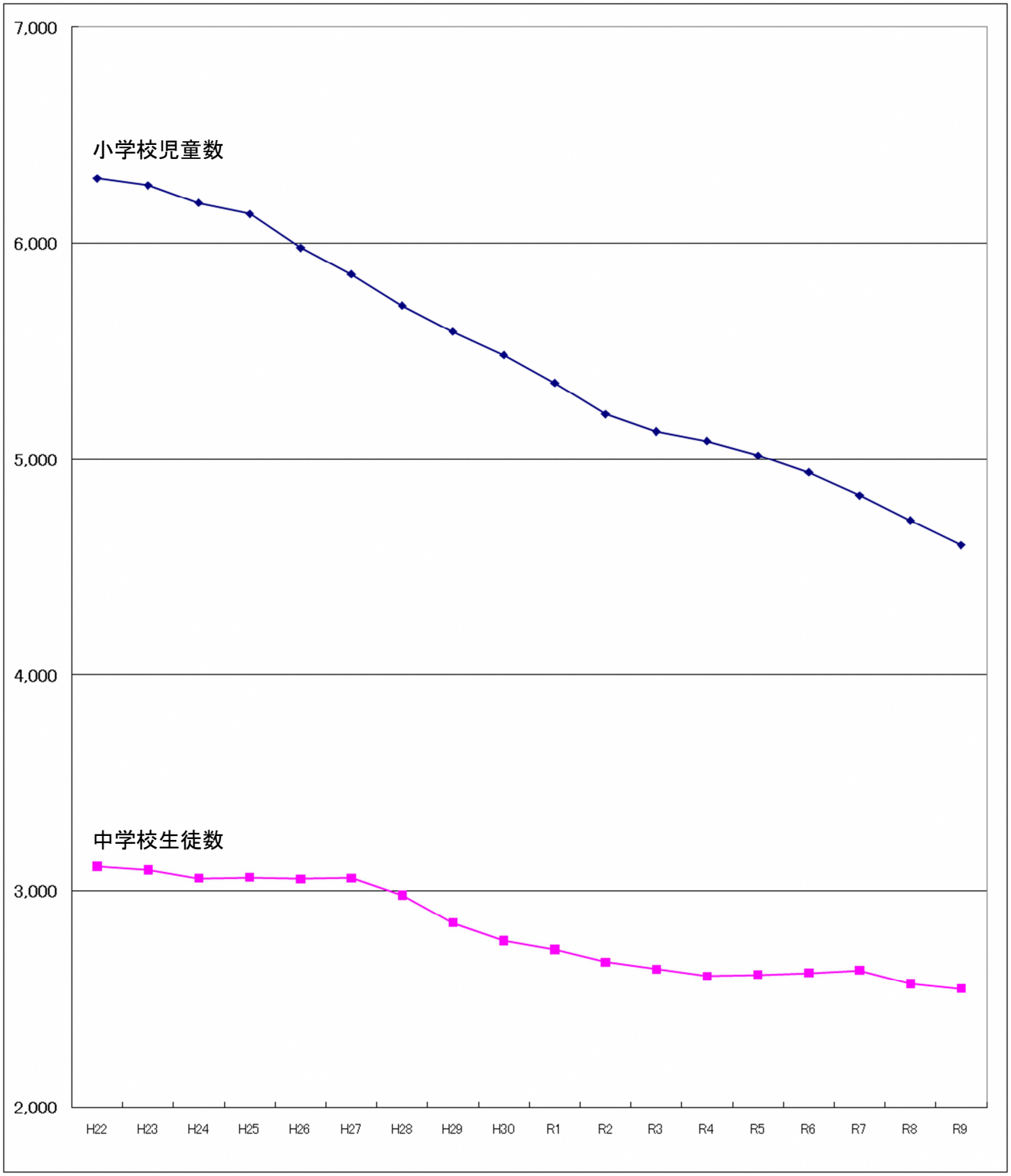
（4）地域と共にある学校・園
家庭や地域と連携し、地域全体でこどもを育てる学校・園をめざします。

※　「学校」は、小学校、中学校のことです。「園」は、保育園（所）、幼稚園、認定こども園のことです。

資料５

平成 22 年からの津山市全体の児童生徒数の推移（R5 以降は推計）

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
小学校児童数	6,301	6,269	6,187	6,135	5,978	5,855	5,710	5,589	5,480	5,351	5,207	5,128	5,085	5,017	4,939	4,832	4,715	4,601
中学校生徒数	3,112	3,097	3,057	3,062	3,054	3,059	2,979	2,852	2,769	2,729	2,671	2,639	2,606	2,613	2,621	2,634	2,572	2,549
合　計	9,413	9,366	9,244	9,197	9,032	8,914	8,689	8,441	8,249	8,080	7,878	7,767	7,691	7,630	7,560	7,466	7,287	7,150



資料６

津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針

平成２２年６月２９日
津山市教育委員会

津山市においては、全国的な少子化傾向の中、児童生徒が減少している地域と児童生徒の増加がみられる地域があり、地域による教育条件や教育環境の均衡を保つ対応が必要となっています。

このような状況の中、平成２０年８月、学識経験者をはじめ、教育関係者、保護者、市民アドバイザーにより構成する「津山市立小中学校の適正規模・適正配置検討懇談会」を設置し、平成２１年３月「津山市立学校適正規模・適正配置に関する意見書」を受けました。

教育委員会はこの「意見書」を踏まえて、子どもたちの教育という観点から、より良い教育環境の整備と学校教育の充実のため、津山市立学校の規模や配置等に関する基本的な方針を次のように定めるものであります。

１．津山市立学校の規模及び配置について

（１）小中学校の規模について

学習・指導面、児童生徒の生活面、学校運営面及び地域との連携面の４つの観点から、小学校は１学年１学級（※1）～３学級（学校の単位では６学級～１８学級）の範囲を「望ましい範囲の規模」とします。

また、中学校は、１学年１学級～６学級（学校の単位では３学級～１８学級）の範囲を「望ましい範囲の規模」とします。

（２）通学に要する時間について

自宅から学校までの通学に要する時間は、小学校においては、徒歩での通学となるため、体力や安全面から、通学時間で概ね４０分以内を「望ましい範囲の通学時間」と考えます。

また、中学校では徒歩、自転車での通学を想定し、通学時間で概ね１時間以内を「望ましい範囲の通学時間」と考えます。

なお、徒歩、自転車以外に、交通機関（路線バス、ＪＲ、スクールバス、タクシー）を利用しての遠距離通学では、自宅を出る時間などを考慮し、小学校、中学校とも１時間以内を「望ましい範囲の通学時間」と考えます。

２．今後の教育環境について

学校教育においては、児童生徒が適度の集団の中で人間関係を築きながら学習し、一人ひとりの個性を生かし、人間性や自主性、社会性など「生きる力」を育んでいくことが重要であります。

今後の状況の変化や現状の改善にあたっては、既成概念にとらわれず、「子供たちにとってより良い教育環境とは何か」という観点から、教育効果を高める方策や状況改善に向けた施策を構築するため、総合的かつ慎重な対応を行っていくこととします。

（１）児童・生徒数の変化、動向の把握

住民基本台帳を基本として、各通学区域内のゼロ歳児以上１５歳までの人口を毎年度ごと整理し、各学校の動向に注視していく体制とします。

（２）状況の改善

５ヵ年後の動向から、「望ましい範囲の規模」とならない状況が想定される場合は、教育委員会内にその対策のための組織を設置して、改善に向けた検討に着手します。

この検討に際しては、児童生徒数の動向や教育システムの変化、施設利用状況を把握し、前述の意見書の内容に配慮した検討とします。

該当校単位の対策のみならず、隣接する学校の状況や市内のバランス、学校資産の有効活用等の観点から通学区域の設定など基本部分も含めて、長期的、多角的な検討を行います。

保護者、学校、地域の方々の意見、要望等も伺いながら協同して状況改善のための対応にあたります。

内容によっては、津山市執行機関の付属機関設置条例（昭和６２年津山市条例第２４号）第３条の規定により設置された、津山市立学校整備審議会等により、その対応を図ることとします。

（３）潜在的な課題への対応

少人数指導等の学習形態の多様化に対応する教室数の増加や特別支援学級の増加、児童生徒や保護者との相談の増加などへの対応のための相談室の必要性など、学校の施設要件も多様化しています。今後も教育環境の充実につながるものについては積極的に取組んでいくこととします。

（４）その他

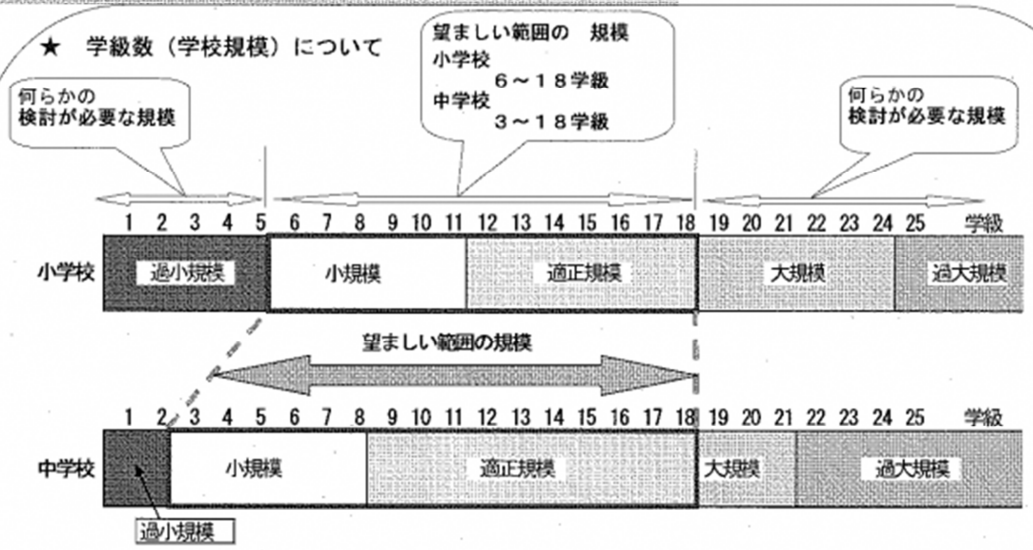
改善の方策によっては、他部署との連携を図りながら、慎重な対応を行うこととします。

※１：学級編成については「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律」により４０人を基準としています。

津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針概要

★　津山市立学校における規模等の基本

★　学級数（学校規模）について

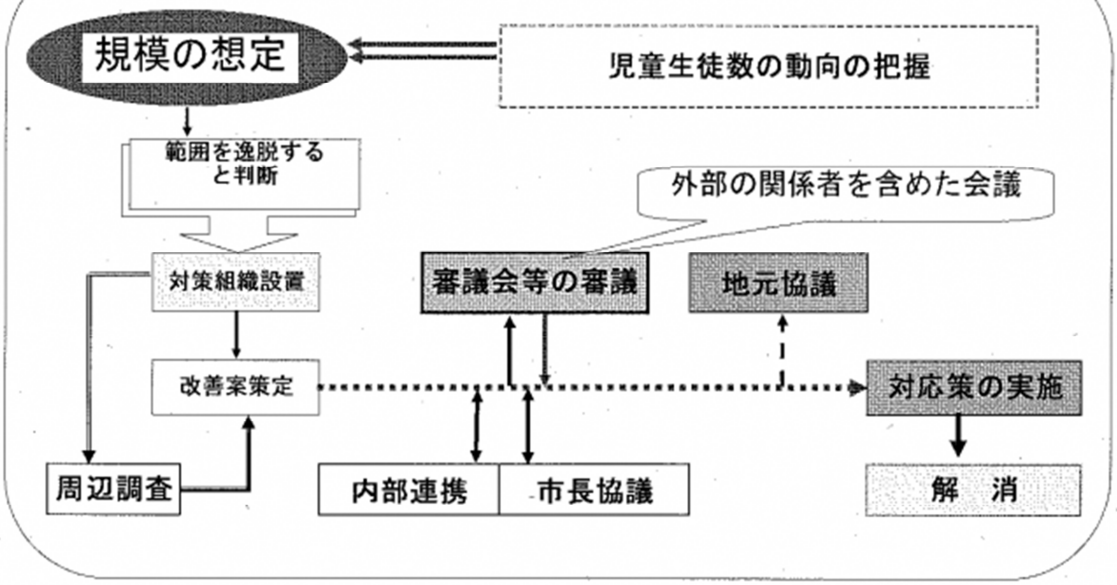


※この分類学級数には特別支援学級は含まれていない。

★　通学時間について

	通　学　時　間	
	小学校	中学校
一般的な通学	概ね40分以内 （徒歩）	概ね1時間以内 （徒歩、自転車）
遠距離通学	概ね1時間以内 （交通機関利用）	

★　改善対応等の進め方について



令和４年度　全国及び岡山県学力調査の結果（抜粋）

資料７

（１）全国学力調査の結果【小学６年生・中学３年生】

（※令和２年度は新型コロナ対策で全国一斉休講のため未実施）

小６　（H31～R4年）										
教科	国語				算数				理科	
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H30	R4
全　国	63.8		64.7	65.6	66.6		70.2	63.2	60.3	63.3
岡山県	64.0		66.0	67.0	65.0		69.0	62.0	60.1	64.0
津山市	62.0	68.3	64.0	**63.0**	62.0	64.1	68.0	**60.0**	57.6	**61.0**
全国比	▲ 1.8		▲ 0.7	▲ 2.6	▲ 4.6		▲ 2.2	▲ 3.2	▲ 2.7	▲ 2.3
標準スコア	49.4		**49.7**	**49.1**	48.0		**48.9**	**48.6**	48.6	**48.9**

中３　（H31～R4年）										
教科	国語				数学				理科	
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H30	R4
全　国	72.8		64.6	69.0	59.8		57.2	51.4	66.1	49.3
岡山県	73.0		65.0	69.0	60.0		57.0	51.0	65.6	49.0
津山市	69.0	78.5	61.0	**66.0**	57.0	48.1	53.0	**45.0**	61.6	**46.0**
全国比	▲ 3.8		▲ 3.6	▲ 3.0	▲ 2.8		▲ 4.2	▲ 6.4	▲ 4.5	▲ 3.3
標準スコア	48.3		48.6	**48.2**	48.8		48.4	**47.5**	47.5	**48.3**

（２）岡山県学力調査の結果

【小学校】

小3		
教科	国語	算数
年度	R4（小3）	R4（小3）
全国	**67.1**	**73.9**
岡山県	68.7	75.2
津山市	69.8	77.4
全国比	2.7	3.5
標準スコア	**51.3**	**51.7**

小5（経年）						
教科	国語			算数		
年度	R2（小3）	R3（小4）	R4（小5）	R2（小3）	R3（小4）	R4（小5）
全国	**72.0**	**69.3**	**68.0**	**71.6**	**70.9**	**60.4**
岡山県	75.4	71.1	68.3	74.7	70.1	63.2
津山市	74.9	74.0	69.8	76.6	71.6	65.0
全国比	2.9	4.7	1.8	5.0	0.7	4.6
標準スコア	**51.4**	**52.3**	**51.0**	**52.6**	**50.3**	**52.1**

小４（経年）				
教科	国語		算数	
年度	R3（小3）	R4（小4）	R3（小3）	R4（小4）
全国	**72.1**	**68.0**	**75.5**	**73.1**
岡山県	72.9	69.3	76.6	74.4
津山市	74.2	72.2	78.0	75.8
全国比	2.1	4.2	2.5	2.7
標準スコア	**51.0**	**52.0**	**51.3**	**51.3**

【中学校】（英語については、中２のみ実施。同一学年の比較無し）

中1		
教科	国語	数学
年度	R4（中1）	R4（中1）
全国	**57.3**	**69.2**
岡山県	58.9	72.0
津山市	53.9	68.5
全国比	▲ 3.4	▲ 0.7
標準スコア	**48.3**	**49.7**

中2（経年）				
教科	国語		数学	
年度	R3（中1）	R4（中2）	R3(中1）	R4（中2）
全国	71.4	**66.7**	68.2	**56.6**
岡山県	74.7	67.9	69.3	60.0
津山市	72.2	64.1	66.0	55.0
全国比	0.8	▲ 2.6	▲ 2.2	▲ 1.6
標準スコア	**50.4**	**48.8**	**48.9**	**49.4**

英語　（R1～R4）				
教科	H31（中2）	R2（中2）	R3（中2）	R4（中2）
全国	61.5	62.7	54.5	**55.9**
岡山県	58.4	63.8	56.9	**55.8**
津山市	51.5	62.8	51.6	**49.6**
全国比	▲ 10.0	0.1	▲ 2.9	▲ 6.3
標準スコア	**45.6**	**50.0**	**48.6**	**47.2**

②

資料８

令和４年度　学習状況調査の結果（抜粋）

（１）全国児童生徒質問紙より（小学６年生、中学３年生）（※令和２年度は新型コロナ対策で全国一斉休講のため未実施）

（1）家庭学習の時間①（1日当たり1時間以上する）

学年	小6				中3			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
全国	66.1		62.5	59.4	69.8		75.9	69.5
岡山県	72.1		70.6	67.0	64.6		73.5	64.9
津山市	70.0	62.2	66.3	66.1	66.5	68.4	74.3	65.3
全国比	3.9		3.8	6.7	▲ 3.3		▲ 1.6	▲ 4.2
県比	▲ 2.1		▲ 4.3	▲ 0.9	1.9		0.8	0.4

（2）家庭学習の時間②（家庭で全くしない）

学年	小6				中3			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
全国	2.3		3.5	4.2	4.4		3.5	4.9
岡山県	1.3		2.1	2.7	5.1		3.6	5.4
津山市	1.2	2.2	2.0	3.9	5.8	5.9	3.3	5.3
全国比	1.1		1.5	0.3	▲ 1.4		0.2	▲ 0.4
県比	0.1		0.1	▲ 1.2	▲ 0.7		0.3	0.1

（3）読書時間（全く読まない）

学年	小6				中3			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
全国	18.7		24.0	26.3	34.8		37.4	39.0
岡山県	17.4		22.3	24.8	32.2		33.7	36.5
津山市	20.0	23.3	30.1	28.6	39.9	44.3	41.6	32.9
全国比	▲ 1.3		▲ 6.1	▲ 2.3	▲ 5.1		▲ 4.2	6.1
県比	▲ 2.6		▲ 7.8	▲ 3.8	▲ 7.7		▲ 7.9	3.6

（4）地域行事への参加（地域の行事に参加している）

学年	小6				中3			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
全国	68.0		58.1	52.7	50.6		43.7	40.0
岡山県	70.7		61.2	57.3	48.9		46.0	43.3
津山市	82.8	74.4	69.8	65.4	58.7	53.9	52.0	53.9
全国比	14.8		11.7	12.7	8.1		8.3	13.9
県比	12.1		8.6	8.1	9.8		6.0	10.6

（5）自分には、よいところがあると思う（肯定的な回答）

学年	小6				中3			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
全国	81.2		76.9	79.3	74.1		76.2	78.5
岡山県	82.5		79.2	80.9	75.5		79.1	81.1
津山市	76.5	70.6	78.8	78.6	71.8	73.3	79.0	77.4
全国比	▲ 4.7		1.9	▲ 0.7	▲ 2.3		2.8	▲ 1.1
県比	▲ 6.0		▲ 0.4	▲ 2.3	▲ 3.7		▲ 0.1	▲ 3.7

（6）携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている。（約束がない）

学年	中3		
年度	R2	R3	R4
全国		18.9	18.2
岡山県		21.3	20.7
津山市	26.4	22.2	18.9
全国比		3.3	▲ 0.7
県比		0.9	1.8

（7）前年までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。（ほぼ毎日）

学年	小6	中3
年度	R4	R4
全国	14.3	21.6
岡山県	12.9	19.4
津山市	13.2	11.4
全国比	▲ 1.1	▲ 10.2
県比	0.3	▲ 8.0

※小6は、5年生までの使用。中3は、中1・2年生での使用

（8）普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしていますか。（2時間以上）

学年	小6		中3	
年度	R3	R4	R3	R4
全国	49.4	50.2	57.0	50.3
岡山県	50.9	51.4	61.9	52.9
津山市	54.0	55.2	70.2	53.8
全国比	▲ 4.6	▲ 5.0	▲ 13.2	▲ 3.5
県比	▲ 3.1	▲ 3.8	▲ 8.3	▲ 0.9

（２）岡山県児童生徒質問紙より（小学５年生、中学１年生、中学２年生）

◆学習状況について（児童・生徒質問紙より）

（1）家庭学習の時間①（1日当たり1時間以上する）

学年	小5				中1				中2			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
岡山県	74.2	77.2	73.5	65.9	83.0	81.5	81.2	77.0	74.4	73.5	73.2	68.7
津山市	69.2	70.7	69.1	65.1	75.5	76.5	74.4	69.3	68.9	71.0	72.4	62.3
県比	▲ 5.0	▲ 6.5	▲ 4.4	▲ 0.8	▲ 7.5	▲ 5.0	▲ 6.8	▲ 7.7	▲ 5.5	▲ 2.5	▲ 0.8	▲ 6.4

（2）家庭学習の時間②（家庭で全くしない）

学年	小5				中1				中2			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
岡山県	4.2	3.7	4.3	7.0	2.2	3.1	2.7	4.2	5.0	5.2	5.3	5.9
津山市	5.5	4.3	5.5	8.1	3.3	4.2	3.7	6.6	6.1	6.4	6.4	8.7
県比	▲ 1.3	▲ 0.6	▲ 1.2	▲ 1.1	▲ 1.1	▲ 1.1	▲ 1.0	▲ 2.4	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.1	▲ 2.8

（3）テレビ・ゲームの時間のルールを決めている

学年	小5		中1		中2	
年度	R3	R4	R3	R4	R3	R4
岡山県	70.3	71.4	63.6	65.2	53.3	55.1
津山市	68.7	71.6	58.8	63.6	51.2	51.9
対県比	▲ 1.6	0.2	▲ 4.8	▲ 1.6	▲ 2.1	▲ 3.2

（4）学校の授業では、私語が少なく、落ち着いた雰囲気の中で学習している（肯定的回答）

学年	小5				中1				中2			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
岡山県	77.4	72.9	70.5	75.8	78.4	67.0	65.1	76.7	70.1	71.1	65.0	71.9
津山市	70.4	72.8	65.8	77.3	76.1	62.8	62.6	78.7	65.9	70.4	64.2	71.4
県比	▲ 7.0	▲ 0.1	▲ 4.7	1.5	▲ 2.3	▲ 4.2	▲ 2.5	2.0	▲ 4.2	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 0.5

（5）自分には、よいところがあると思う（肯定的な回答）

学年	小5				中1				中2			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
岡山県	82.3	79.0	79.6	80.8	80.7	76.2	77.6	79.8	75.6	74.8	74.8	74.8
津山市	79.4	77.2	75.0	80.8	77.5	71.6	71.2	80.7	71.6	71.9	73.9	69.1
県比	▲ 2.9	▲ 1.8	▲ 4.6	0.0	▲ 3.2	▲ 4.6	▲ 6.4	0.9	▲ 4.0	▲ 2.9	▲ 0.9	▲ 5.7

（6）あいさつ（近所の人にあいさつをする）

学年	小5				中1				中2			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
岡山県	91.0	88.8	90.3	89.8	93.4	92.4	92.9	93.5	90.3	90.7	91.3	90.3
津山市	87.3	85.2	88.6	89.8	93.6	93.2	92.2	91.2	90.8	90.0	93.1	87.6
県比	▲ 3.7	▲ 3.6	▲ 1.7	0.0	0.2	0.8	▲ 0.7	▲ 2.3	0.5	▲ 0.7	1.8	▲ 2.7

（7）普段〔月～金〕、1日当たりテレビゲーム〔コンピューター・携帯式・スマートフォンを含む〕の時間（1日2時間以上する）

学年	小5				中1				中2			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
岡山県	33.3	39.8	41.3	44.9	40.8	45.4	47.5	51.4	44.1	48.2	49.6	52.6
津山市	42.0	45.7	44.1	49.1	43.1	50.5	52.4	59.8	52.9	54.6	50.8	56.7
県比	▲ 8.7	▲ 5.9	▲ 2.8	▲ 4.2	▲ 2.3	▲ 5.1	▲ 4.9	▲ 8.4	▲ 8.8	▲ 6.4	▲ 1.2	▲ 4.1

（8）地域行事への参加（地域の行事に参加している）

学年	小5				中1				中2			
年度	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4	H31	R2	R3	R4
岡山県	74.0	72.5	65.6	62.0	70.3	70.3	66.8	62.1	59.7	59.1	51.6	51.0
津山市	77.9	77.9	67.8	73.8	78.4	80.5	77.4	69.5	65.1	65.1	61.0	56.5
県比	3.9	5.4	2.2	11.8	8.1	10.2	10.6	7.4	5.4	6.0	9.4	5.5

資料９

令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果（市は独自集計）

長期欠席・不登校

１　調査結果

【長欠・不登校】		小学校			中学校		
		H30	R1	R2	H30	R1	R2
全国	長期欠席者数	84,033	93,058	113,746	156,006	162,736	174,001
	うち、不登校	44,841	53,350	63,350	119,687	127,922	132,777
	不登校出現率(%)	0.70	0.80	1.00	3.65	3.90	4.09
岡山県（国公私立）	長期欠席者数	1,888	1,870	2,193	2,679	2,977	3,103
	うち、不登校	772	909	933	1,599	1,746	1,667
	不登校出現率(%)	0.76	0.91	0.94	3.09	3.44	3.25
津山市	長期欠席者数	86	99	118	177	177	183
	うち、不登校	38	66	56	85	109	76
	不登校出現率(%)	0.69	1.23	1.08	3.07	3.99	2.85

※「不登校出現率（%）」：不登校児童（生徒）数÷在籍児童（生徒）数×100

資料10

津山市小中学校　学区についての資料

小学校名	中学校名
東小学校	中道中学校
	北陵中学校
西小学校	鶴山中学校
	津山西中学校
南小学校	鶴山中学校
	津山西中学校
北小学校	鶴山中学校
林田小学校	津山東中学校
	中道中学校
鶴山小学校	中道中学校
弥生小学校	北陵中学校
向陽小学校	津山西中学校
院庄小学校	
佐良山小学校	
一宮小学校	北陵中学校
高田小学校	中道中学校
	北陵中学校
清泉小学校	津山東中学校
高倉小学校	中道中学校
高野小学校	津山東中学校
成名小学校	
河辺小学校	
大崎小学校	
広野小学校	
加茂小学校	加茂中学校
新野小学校	勝北中学校
広戸小学校	
勝加茂小学校	
喬松小学校	久米中学校
中正小学校	
誠道小学校	
秀実小学校	

中学校名	小学校名
津山東中学校	林田小学校
	清泉小学校
	高野小学校
	成名小学校
	河辺小学校
	大崎小学校
	広野小学校
中道中学校	東小学校
	林田小学校
	鶴山小学校
	高田小学校
	高倉小学校
北陵中学校	東小学校
	弥生小学校
	一宮小学校
	高田小学校
鶴山中学校	西小学校
	南小学校
	北小学校
津山西中学校	西小学校
	南小学校
	向陽小学校
	院庄小学校
	佐良山小学校
加茂中学校	加茂小学校
勝北中学校	新野小学校
	広戸小学校
	勝加茂小学校
久米中学校	喬松小学校
	中正小学校
	誠道小学校
	秀実小学校

津山市小・中学校の通学区域（例）

指定学校名	指定区域（行政区画による。ただし、行政区画が複数の学校に分れる場合は、かっこ内の町内会又はその内部組織若しくは地番又は表示による）
西小学校	・・・ 小田中（小田中のうち西新座東・西新座西・新屋敷・笠松・神田・田中（211～311番地・うち300番地を除く）） ・・・
北小学校	・・・ 小田中（小田中のうち田中1～210番地・300番地・312番地以降） ・・・
向陽小学校	・・・ 小田中（小田中のうち西松原）・・・

体制整備の類型のメリット・デメリット

メリット・デメリット	比較の観点／学校体制	過小規模校（複式学級）	近隣小学校との統合	小中一貫型小学校・中学校化	義務務教育学校化
メリット	学習・指導面	・児童の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事等において、児童一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。 ・異学年交流による学習が促進される。 ・間接指導を通して自己教育力が育つ。	・児童数が増えることで、学習指導面や学校行事などの集団活動において、これまで以上に、学び合いの場の工夫やグループ編成のあり方の工夫などが可能となる。 ・授業等で多様な意見に触れ、協力や切磋琢磨する活動を通じて個々の資質や能力を伸ばすことができる。	・９年間の学校教育目標で児童生徒の個性に応じた、系統性・連続性を意図した教育課程が可能となる。また、教育課程上の特例が認められ、一貫教育の軸となる新教科等の創設や学年・学校段階間での指導内容の入れ替えなどの工夫も柔軟に行うことができる。 ・異学年交流による学習が促進される。	基本的に、義務教育学校は、小中一貫型小・中学校と同じ小中一貫教育であるためメリット・デメリットは同様の内容があげられる。 ・一人の校長、一つの教職員組織とするなど完全に小・中学校を一体とした学校であり、小中連携の効果は４つの類型の中で最も期待できる。
	児童生徒の生活面	・児童相互の人間関係が深まりやすい。異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・多人数集団になじみにくい児童には適応しやすい場合がある。 ・上学年のリーダーシップと下学年の向上心が高まる。 ・コミュニケーション力、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する力が向上する。	・一定の規模の児童集団を確保でき、友人関係が広がる。 ・毎年度、クラス替えを契機として児童生徒が学校、学級生活に意欲を新たにすることができる。	・小・中学校９年間を見通した系統的教育が展開できるとともに学習内容についての質や量、授業の進め方、学校生活のルール等の差異による「中１ギャップ」の解消や中学校進学への不安の緩和につながる。特に、中１ギャップに起因した不登校の対策に効果を上げている。 ・教員が同じ児童生徒を長い期間で見守れるのは、対応力向上にもつながり、児童生徒にとっても安心感が増す。小・中学校の合同イベントを実施しやすくなる。 ・小学生が中学生にあこがれ、中学生が小学生への思いやりが育まれる。 ・実情によっては、５、６年生からの部活動参加による技術向上が可能となる。	基本的に、義務教育学校は、小中一貫型小・中学校と同じ小中一貫教育であるためメリット・デメリットは同様の内容があげられる。 ・教員組織が１つであることから、９年間の義務教育を６－３制以外に、４－３－２制、５－４制とすることも可能であり、より特色のある取組が独自で実施できる。
	学校運営面	・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。 ・施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	・児童にとっては、地理的地域的に統合後のイメージや人間関係等の見通しが持て、広範囲な統合に比べ不安が少ない。 ・学級の枠を超えた習熟度別指導や、学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができる。 ・児童同士の人間関係や児童と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。 ・施設建設等が必要になった場合、補助金制度を活用できる可能性がある。	・積極的な異学年交流や教科担任による指導と多面的な評価、校務分掌の統合・整理等、効果的な取組例も見られ、児童生徒だけでなく、学校運営上一定の効果が期待できる。 ・地域と連携したキャリア教育や地域学習等を９年間のダイナミックな活動に仕立てることが可能である。 ・施設建設等に補助金制度がある。また、施設分離型（用語解説８）の場合は、当分の間新たな施設費は必要としない。ただし、老朽化により施設改修等が必要となる場合がある。	基本的に、義務教育学校は、小中一貫型小・中学校と同じ小中一貫教育であるためメリット・デメリットは同様の内容があげられる。 ・教員組織が１つであることから、９年間の義務教育を６－３制以外に、４－３－２制、５－４制とすることも可能であり、より特色のある取組が独自で実施できる。
	地域との連携面	・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・近隣小学校の統合は、学校同士の連携や子どもたちの間で交流の機会があり、新たな人間関係づくりへの不安や抵抗が少ない。		

体制整備の類型のメリット・デメリット

メリット・デメリット	比較の観点／学校体制	過小規模校（複式学級）	近隣小学校との統合	小中一貫型小学校・中学校化	義務務教育学校化
デメリット	学習・指導面	・集団の中で多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。 ・児童数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指 導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ・中１ギャップや小中連携の保障などが、現状のままになる可能性がある。	・中１ギャップや小中連携の保障などが、現状のままになる可能性がある。	・教職員にとっては、指導する学年の幅が増えることにより、情報共有や打ち合わせをする時間や機会が増加し、教職員の負担感・多忙感等につながる可能性がある。	基本的に、義務教育学校は、小中一貫型小・中学校と同じ小中一貫教育であるためメリット・デメリットは同様の内容があげられる。 ・施設一体型（用語解説８）の義務教育学校では通学距離は、小学生でも中学生と同じく６ｋｍ以内と遠距離になることで、バス通学などで低学年等にとって負担となる可能性がある。 ・小学校の卒業式という区切りがなくなり、児童が成長を感じる機会が減少したり、中学校への新鮮さや、新たな学校への期待が乏し
	児童生徒の生活面	・クラス替えが困難であることなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。	・通学距離が遠距離となったり、通学班や地区児童会の単位が広がることで大人の目が届きにくい。	・９年間の長い学校生活で、友達関係での悩みや転出入の個別対応への配慮が必要となる。 ・思春期に入る中学生の言動が、場合によっては、小学生に悪影響を及ぼすことが心配される。 ・小学校高学年の時期のリーダーシップや自主性を養う機会が減る。 ・複数小学校の統合により校区が大きくなった場合には、通学が遠距離になることで、バス通学などで低学年等にとって負担となる可能性がある。	基本的に、義務教育学校は、小中一貫型小・中学校と同じ小中一貫教育であるためメリット・デメリットは同様の内容があげられる。 ・小学校と中学校の両方の教員免許状が必要となり、教職員確保が困難になる。ただし、当面の間、暫定措置がある。
	学校運営面	・学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・教職員数が少ないため、学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談や研究、協力、切磋琢磨等が行いにくい。一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ・教職員１人当たりの出張等の校外業務の回数が多くなり、管理職が授業に入ることが多い。 ・小規模化が進むと、教頭、養護教諭、事務職員等の未配置が生じる。 ・施設は現状のまま維持されるが、児童１人当たりの維持費が大きくなる。施設の老朽化により改修が必要となった場合、補助金制度が活用できない場合があり、津山市の財政負担が増す可能性がある。 ・複式学級を解消する場合は、市独自の市費負担が生ずるため、財政負担が大きい。	・施設一体化に伴い、施設の新設・増築が必要となった場合、多額の費用が掛かる。ただし、補助制度に該当する場合がある。	・体育館や運動場、プールなどの施設設備が１つの場合はスケジュールの調整が難しく、利用頻度が減ってしまう可能性がある。 ・施設一体化に伴い、新設・増築が必要となった場合、多額の費用が掛かる。ただし、補助制度に該当する場合がある。 ・小・中学校で教職員組織が異なるため一体的な組織マネジメントが必要となり、情報共有や合意形成に時間がかかる。小中合同行事の運営など、教員の多忙が危惧される。	基本的に、義務教育学校は、小中一貫型小・中学校と同じ小中一貫教育であるためメリット・デメリットは同様の内容があげられる。 ・施設一体型の義務教育学校では、学年数・学級数が増加することが考えられるため、一体化前の施設を利用しない場合、体育館や運動場、プールなどの学校施設の利用スケジュール調整が難しくなる可能性もある。
	地域との連携面		・近隣地域の学校の統廃合は、全国的な事例からも、地域での大きな議論となる場合がある。とりわけ歴史の古い小学校の場合は、地域社会の歴史や風俗、文化等との強い結びつきを持っていることが多く、一体感の醸成には時間を要する場合がある。 ・学区が広域になることで地域の一体感を維持する努力が必要である。	・近隣地域の学校の統廃合は、全国的な事例からも、地域での大きな議論となる場合がある。とりわけ歴史の古い小学校の場合は、地域社会の歴史や風俗、文化等との強い結びつきを持っていることが多く、一体感の醸成には時間を要する場合がある。 ・学区が広域になることで地域の一体感を維持する努力が必要である。	基本的に、義務教育学校は、小中一貫型小・中学校と同じ小中一貫教育であるためメリット・デメリットは同様の内容があげられる。

資料 12

学校教育の体制整備の方策一覧　（令和４年８月）

比較の視点／学校体制		過小規模校（複式学級）	近隣小学校との統合	小中一貫型小学校・中学校化	義務教育学校化
指導		教員の「わたり」あるいは「Ａ・Ｂ年度方式」により、複数学年を同時に指導	学年ごとに指導（これまでと同様）		
管理職等配置		小規模化が進むと、教頭、養護教諭、事務職員等の未配置が生じるおそれあり	一定規模を保ち、配置基準をクリアしていれば、未配置は生じない		
施設形態		これまでの学校が存続	統合していずれかの学校の校舎で開校、あるいは新校舎を建設	施設一体型 施設分離型	
修業年限		小学校６年、中学校３年			９年 （前期課程６年、後期課程３年）
組織・運営		それぞれの学校に校長、教職員組織		それぞれの小中学校に校長、教職員組織 （但し、関係校の一体的マネジメントが要件）	一人の校長、一つの教職員組織
免許		所属する学校の免許状を保有していること			原則小学校・中学校の両免許状を併有　※当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能
教育課程		小中学校それぞれの教育目標・教育課程		９年間の教育目標の設定 ９年間の系統性・体系性に配慮がある教育課程の編成	
小中連携の効果		期待できる		より期待できる	教職員組織が一体化され、最も期待できる
新入生・保護者		複式の指導や限られた交友関係への懸念が見込まれる	指導方法、教育集団の規模は維持 遠距離通学になる可能性	遠距離通学になる可能性 （概ね小学校４㎞、中学校６㎞）を超える可能性	
地域との関係		従来の地域住民との関係が維持される	統廃合の対象となる学校の地域住民に対する丁寧な合意形成が必要 従来の地域住民との関係が拡大する		
財政的要因	維持費	児童１人当たりの維持費が大きくなる	児童１人当たりの維持費が小さくなる	児童１人当たりの維持費が小さくなる （施設形態で異なる）	児童１人当たりの維持費が小さくなる （施設形態で異なる）
	人件費	複式学級を解消する場合は市費負担が生ずる	複式学級を解消するための市費負担は生じない		
	施設整備（改修）に活用できる補助金制度の有無	無	有	有	有